

「かながわの名木 100 選」  
調査・診断報告書

平成 19 年 12 月

日本樹木医会 神奈川県支部

(財)日本造園修景協会 神奈川県支部

# 目 次

## I 「かながわの名木 100 選」の調査・診断の目的

## II 調査対象樹木の概要

1. 樹木概要一覧(樹種、形状、指定等)
2. 所在地一覧
3. 分布図

## III 調査・診断の概要

1. 調査・診断方法
2. 調査・診断体制
3. 調査・診断結果

## IV 調査・診断票

# I 調査・診断の目的

## 「かながわの名木 100 選」調査・診断の目的

神奈川県では、昭和 59 年（1984 年）に、「かながわの名木 100 選」が選定されております。これらの名木は地域のシンボルとして、また巨木、古木として、あるいは学問的に珍しい木として選ばれたもので、多くの人に親しまれ、それぞれに存在感を示している樹木です。

この名木 100 選の指定から早 23 年が経ちました。この間、これらの名木の診断・治療は、一部の名木に対して必要に応じて行われてきましたが、全体の統一した調査・診断は一度も行われず今日に至っております。

私たち樹木医に課せられた役割は、これらの巨木・古木が元気に後世に引き継がれていくようお手伝いすることではないでしょうか。せめて 10 年に一度は健康診断を行い、その都度、それぞれの木に対する適切な判断と対応ができるようになってほしいと考えております。その手始めとして、今回の全名木の調査に取り組んだ次第です。

また大樹の存在意義や緑の大切さについて認識を同じくする、(財)日本造園修景協会神奈川県支部との共同企画事業として、診断調査に取り組むことができました。

本報告書では、さまざまな状況下に置かれた名木の健康の度合いを説明しております。この現状を多くの人に知ってもらい、今後の保全や対策にぜひとも役立てていただきたいと願っております。そして「かながわの名木 100 選」が、後世まで受け継がれていってほしいと、切に念ずる次第です。

平成 19 年 12 月  
日本樹木医会神奈川県支部  
支部長 富田 改  
(財)日本造園修景協会神奈川県支部  
支部長 高橋 雅雄

## Ⅱ 調査対象樹木の概要

1. 樹木概要一覧  
(樹種、形状、指定等)
2. 所在地一覧
3. 分布図

## Ⅲ 調査・診断の概要

1. 調査・診断方法
2. 調査・診断体制
3. 調査・診断結果

## 1. 調査・診断方法

### 1) 調査対象

調査・診断の対象は、「かながわの名木100選」のうち、滅失した樹木及び所有者の意向等により調査の不可能な樹木計11本を除き、89本を対象に行った。

### 2) 調査・診断の書式及び方法

調査・診断票は概況調査票、外観等調査票、樹形写真、被害部等詳細写真の4書式を用いた。

#### ・概況調査票

概況調査票は、(財)日本緑化センターによる書式に準じた調査票を使用し、生育環境、管理状況、形状・寸法、その他該当樹木に関する聞き取りの内容を記載した。

形状寸法の計測については、調査対象全樹木の統一的計測を心がけ、巻き尺、計測棒尺、ハンドレベル等、共通した計測機器を使用して行った。

#### ・外観等調査票

外観等調査票については、本調査の対象樹木の性格を考慮し、樹木の活力度等の[外観調査]、名木としての現状評価や保全の実態を確認した[名木実態調査]、診断・治療の履歴を確認した[診断・治療履歴]からなる独自の書式を作成し、調査を行った。

調査に際しては、対象樹木が国や神奈川県及び各市町村指定の天然記念物であるものが含まれることから、通常診断に使用する木槌による樹体の打診や、鋼棒による根元の調査を原則的に行っていない。

#### ・樹形写真

樹形写真については、対象樹木の規格や周囲の状況によりやむを得ない場合を除き原則的に東西南北の4方向の全景写真を撮影した。

(一部に撮影不可な方位があるものや、樹幹部のみの撮影となってしまった樹木もあった。)

#### ・被害部等詳細写真

被害部等詳細写真については、被害のあった大枝、幹、根元等の各部位の拡大写真や樹木の特色的な詳細を撮影した。

## 2. 調査・診断体制

調査・診断は、日本樹木医学会神奈川県支部と(財)日本造園修景協会神奈川県支部の協賛により、双方の会員に広く周知し、有志を募って自主的に行った。また、日本樹木医学会神奈川県支部が推進している日本大学との協働の一環として、樹木医を目指す学生諸君の参加も呼びかけて行った。

調査に際しては、「かながわの名木 100 選」で区分された7地区の地区連絡員を定め、各自治体の関係部署への挨拶と告知を事前に行った。また、個人等の所有者に対しては、神奈川県及び各自治体関係部署からの連絡をお願いする等、可能な限り事前の挨拶と告知を行った。

また、可能な範囲でマスコミ関係者に本調査業務情報の公開と取材の依頼を行い、「かながわの名木 100 選」及び本事業のPRに努めた。

着手に当たっては、調査・診断の統一を図るために、西湘地区小田原と横須賀三浦地区鎌倉の2箇所において事前に特別研修会を開催し、計測等の調査方法や診断基準について共同作業を行い、調査員調査・診断作業の詳細を確認した。

平成 19 年4月から12月までの8ヶ月間に行われた調査日数は約30日で、参加人員は約 76名、全体での延べ参加人数は 250 名ほどであった。

### [参加者名簿]

相澤正章、浅沼賢仁、浅野国広、芦垣明彦、安部鉄雄、阿部豊、新井清、有賀一郎、安藤修、飯野貴美子、井汲達也、池田朋弘、池本三郎、石井昇、伊藤博之、上田卓、内海紗也加、内山堅、海老塚正朗、大城潔、大谷洋生、大野啓一郎、小野寺佳郎、金原正道、金子直作、川九邦雄、川口侑宏、神田多、桐山義志雄、日下憲彦、倉方志磨、小池幹夫、小島和夫、小島拓夫、後藤直樹、小林菊代、小室武利、鈴木清、鈴木健一、斎藤玉青子、佐藤安春、篠原宏、須藤哲、曾根武夫、高橋宏美、高橋雅雄、高山尋未、竹林和夫、谷岑夫、塚田源芳、津田拓哉、坪池光芳、徳江泉、富田改、長澤利教、中村弘和、中本三和、長井克彦、難波良雄、羽切俊勝、橋本洋輔、長谷川芳男、蜂谷道和、発田進、平野耕生、平野達也、眞岡雄一、牧野行雄、三森留美、桃崎徳、山岡好夫、山田武生、山本謙一、横山一平、吉田義隆、鷺山大介

(アイウエオ順、所属・敬称略)



### 3. 調査・診断結果

今回の調査・診断結果を樹木の活力度から総括した場合、健全で問題の殆ど無いものが約2割、若干の異常はあるが概ね健全と思われるものが約5割で、合わせて7割の樹木が健全またはそれに近いものであることが把握できた。一方約3割の樹木は明らかに異常を抱えており、何らかの処置が必要であることも明らかとなった。

また、概ね健全と思われる約半数の樹木も、樹齢と被害の状況から判断し、このまま放置した場合、被害が進行することも想定され、これらの樹木に関し、継続観察や、より詳細な調査等、定期検診の必要性が強く認識された。

調査・診断結果に基づく[樹木の活力度]、[被害の状況]、[処置の必要性]の概要を以下に整理する。

#### 1) 樹木の活力度

樹木の活力度については、樹勢、樹形及び被害の状況を判断し、優劣の順にAからEまでの5段階に区分した。

**A: 樹勢、樹形ともに良好で被害が無い、またはあっても軽微な樹木**

該当樹木19本(21%)

**B: 樹勢、樹形のいずれかに若干の異常が認められ、被害が軽微な樹木**

該当樹木42本(47%)

**C: 樹勢、樹形のいずれかに明らかに異常があり、被害が認められた樹木**

該当樹木22本(25%)

**D: 樹勢、樹形のいずれかに著しい異常があり、被害が甚大な樹木**

該当樹木5本(6%)。

**E: 殆ど枯死していて回復の見込みが無い樹木**

該当樹木1本(1%)。

#### 2) 被害の状況

調査対象樹木89本のうち、被害の認められなかった樹木は7本で、他の82本は何らかの被害が認められた。

被害を部位別にみた場合、幹に異常のあるものが66本、次いで大枝49本、根元が41本、大枝付け根16本、幹分岐部9本の順であった。(部位に重複あり)

### 3) 処置の必要性

#### ・処置の必要性

調査対象樹木89本のうち、被害が無い、またはあっても軽微で処置の必要が無いと判断されたものは23本あり、他の66本は何らかの処置が必要と判断された。また、処置の必要が無い樹木についても、樹齢を考慮し、継続的な観察を行うことが望ましいと思われる。

#### ・処置の緊急度

何らかの処置が必要と判断された樹木のうち、その緊急度をみた場合、緊急を要するものが17本、近々あるいは中期的には処置が必要なものが22本、長期的には処置が必要と判断されたものが27本であった。(緊急度に重複あり)

緊急を要する樹木の内容を見た場合、土壌改良や剪定等の具体的な処置が必要なものが3本、枯れ枝の除去等、樹体そのものの治療というよりは、見学者等の安全確保の観点からのものが8本、今回の調査では原因が特定困難で、より詳細な調査が早急に求められるものが6本であった。

なお、調査・診断の詳細は次節の各調査・診断表を参照されたい。

## IV 調査・診断票